

## 「日本緑化工学会誌 執筆要領」 (2022年11月1日改定)

### 1. 原稿の作成

- ・原稿は、学会HP等から原稿種別ごとの原稿テンプレートWordファイルをダウンロードして作成すること。
- ・原稿作成にあたっては、原稿テンプレートWordファイルだけでなく、学会HP等に掲載された各種通知を確認すること。
- ・通常号に関しては、論文・総説は8ページ以内、短報は4ページ以内、技術報告は6ページ以内、技術資料は2ページ以内とする。これらのページ数を超過した場合には、掲載料に加えて、投稿規程に示す超過料金が著者負担となることに留意する。
- ・通常号の審査原稿に最大ページを設定する。論文・総説は超過4ページで計12ページ、短報は超過2ページで計6ページ、技術報告は超過2ページで計8ページ、技術資料は超過2ページで計4ページを、各原稿種別の最大ページとする。最大ページを超えた原稿は編集委員会が認めた場合以外は受け付けない。
- ・大会号（論文・技術報告のみ）に関しては、論文は6ページ以内、技術報告は4ページ以内とする。超過ページのある原稿は受け付けない。
- ・論文・短報・総説は、原稿校閲時の匿名性確保のため、著者の特定が可能な情報（著者、所属、住所、メールアドレス、謝辞など）に関して、同等のスペースを○（全角記号マル）で置き換えること。
- ・図表は著者が割り付ける。割付図表が本文の間にならないよう、必ず天地に割り付け、そのまま掲載できる体裁にすること。
- ・余白は上35 mm、下30 mm、左右各16 mmとする。
- ・各ページの字数は27字×48行×2段組（段間のスペースは約4～6 mm）を基本とする。
- ・使用フォントは、和文は全角 MS 明朝、英数字・記号は Century、フォントサイズはいずれも 9 ポイントを基本とする。ただし、見出しや図表題など、別途指示のある場合はそれに従うこと。
- ・原稿の句読点は全角の「，」と「。」とする。
- ・原稿本文中の2種類の括弧「」，（）は、全角記号を使用する。ただし、本文中の学名

表記で一部半角の使用を認めるため、学名記入で括弧を使用する場合は、下記の「2.5 本文 c. 生物名、人名、記号など」を必ず確認すること。

- 単位の記述には原則として半角英数字を使用する。半角カタカナや機種依存文字（例：mm, cm, km, mg, kg, cc, mm<sup>3</sup>, cm<sup>3</sup>, m<sup>3</sup>, km<sup>3</sup>, mm<sup>3</sup>, cm<sup>3</sup>, m<sup>3</sup>, km<sup>3</sup>, 丸付き数字①, ②, 括弧つき数字(1), (2), 全角ローマ数字 I, II, i, ii, №など）は使用しない（例：II→II（半角大文字のアイを2つ並べて記述））。また、単位と数字の間には半角スペースを挿入する。
- ただし、℃, %については全角記号を使用し、これらの単位の前にスペースは入れない。

## 2. 原稿の構成

原稿は、表題、著者名、所属機関、摘要およびキーワード、AbstractおよびKey words（論文・短報・総説）、本文、謝辞、引用文献、図表を規定に従って割り付けること。利益相反に該当する倫理的事項（研究助成資金等）があれば、謝辞に記載すること。

### 2.1 表題

- 表題は、原稿内容を具体的かつ的確に伝えるものとする。
- 表題は、原則として40字を超えないものとする。表題での学名表記が、この原則をうけて困難な場合は表題ではなく本文の初出時に学名をイタリック表記すること。
- 副題は原則として認めない。ただし、継続研究では主題の後に、(I), (II), .....として、副題を付けることを認めるが、その場合も原則として主題を含めて40字を超えないものとする。
- 表題は2行以内に収める。なお、表題が2行になる場合は、バランスを考慮してキリの良い箇所で行改行しても構わない。
- 表題はMSゴシック太字、英数字は Century 太字。文字サイズ16ポイント。
- 英文（人名・地名、学名等、ローマ字や英語以外の欧語表記を含む。以下同様）表題は、和文表題の内容を正確に翻訳したものとし、簡略な表現を心がける。文頭および固有名詞の頭文字を大文字とし、それ以外は小文字とする。学名はイタリック表記とする。
- 英文表題は、英文著者名に続けてコロンとスペース「:」をいれる。固有名詞の場合を除き、第2語以下の頭文字は小文字にする。Century, 文字サイズ9ポイント、太字。
- 英文原稿の場合は、英文表題の内容を正確に翻訳した和文表題を付けることとする。和文表題は簡略な表現を心がけ、前述の和文表題に関する原則に従うこと。

## 2.2 著者名

〔論文・短報・総説〕 和文および英文の著者名を書く。著者名と同等のスペースを○（全角記号マル）で置き換えること。

〔技術報告・技術資料〕 和文の著者名を書く。著者名は○で置き換えない。

### 2.2.1. 和文著者名

- ・「表題」との間に1行空け，和文著者名を書く。
- ・漢字・かな・カナ表記の姓名については和文で記述する。英文，その他言語で表記される姓名については，原則カタカナ書きとする。
- ・共著の場合，和文著者名は全角の「・」で結ぶ。
- ・「姓，名」の順に記述する。
- ・和文姓名が2文字や3文字（姓1文字＋名1文字，姓2文字＋名1文字，姓1文字＋名2文字）の場合は姓名の間に全角スペースを挿入すること。後述する「2.7 引用文献」の著者名も前記様式でスペースを挿入する。ただし，姓名が4文字以上の場合は全角スペースの挿入を不要とする。
- ・MSゴシック太字，英数字はCentury太字。文字サイズ14ポイント。
- ・著者名の右肩に番号を添えること。
- ・投稿規程に定めた責任著者名の右肩には番号に加えて，Centuryの「\*」もつけること。  
なお，大会号の場合，大会発表時の発表者は，筆頭著者または責任著者であることが望ましい。大会号の発表者を示す必要はない。
- ・著者間で所属機関が同一の場合は，著者全員の所属機関が1)となるため，1)の肩付き番号を付す。
- ・著者間で所属機関が異なる場合は，それぞれの著者の所属機関と対応する肩付き番号を付す。
- ・英文原稿の場合「Key words:」との間に1行空け，和文著者名を書く。

### 2.2.2. 英文著者名

- ・「キーワード:」との間に1行空け，英文著者名を書く。

- ・共著の場合、英文著者名は、「 , 」で結ぶ。最後尾の著者の前は「and」で結ぶ。
- ・省略せず「姓」, 「名」の順に書き、姓と名の間は半角カンマ, 半角スペースを挟む。姓はすべて大文字, 名は頭文字を大文字とし, 2文字目以降は小文字とする。姓の2文字目以降はスモールキャピタルにしない。
- ・Century, 文字サイズ9ポイント。
- ・英文原稿の場合「表題」との間に1行空け, 英文著者名を書く。Century, 文字サイズ14ポイント。

### 2.3 著者所属機関

[論文・短報・総説] 和文と英文の著者所属を書く。著者所属機関と同等のスペースを○(全角記号マル)で置き換えること。

[技術報告・技術資料] 和文の著者所属のみ書く。著者所属機関は○で置き換えない。

#### 2.3.1 和文著者所属

- ・所属は, 大学の場合は大学名および学部または研究科までとし, その他の機関もこれに準じた記述内容とする。
- ・所属のはじめに番号を添える。
- ・所属が変更された場合には旧所属を記載し, 現所属を全角の括弧内に(現: . . .)と書く。現在どこの組織にも所属していない場合には, 旧所属を記載する。
- ・著者所属は, 原稿の著者名との間に1行空けて書く。
- ・MS明朝, 英数字はCentury。文字サイズ11ポイント。

#### 2.3.2 英文著者所属

- ・所属の英文表記はできるだけ省略された形とすること。冠詞, 助詞, 接続詞等を除き, 単語の頭文字は大文字とする。

### 2.4 摘要およびキーワード

[論文・短報・総説] 摘要とキーワード, AbstractとKey wordsを書く。

[技術報告・技術資料] 摘要とキーワードを書く。

#### 2.4.1 摘要

- ・通常号と大会号は字数が異なることに注意する。通常号は500字以内，大会号は300字以内で書く。
- ・改行せず1段落のみとする。内容は研究の目的，方法，結果，結論等に関する定性的，定量的な情報を具体的に記述するよう心がける。
- ・論文・短報・総説では，著者所属との間に1行空ける。技術報告・技術資料では，著者所属との間に2行空ける。
- ・「摘要：」の語句は全角でMSゴシック太字にし，それ以降は太字にしないで，和文は MS 明朝，英数字はCentury。
- ・文字サイズ8.5ポイント。

#### 2.4.2 キーワード

- ・キーワードは6語以内とする。
- ・「摘要：」から改行して「キーワード： 」といれ，キーワードを続けて書く。
- ・「キーワード： 」の語句は全角で太字にし，それ以降は太字にしない。
- ・和文はMS明朝，英数字はCentury，文字サイズ8.5ポイント。

#### 2.4.3 Abstract

- ・通常号と大会号は語数が異なることに注意する。通常号の論文・短報・総説は250語以内，大会号の論文は150語以内で書く。
- ・改行せず1段落とする。和文の摘要同様，研究の目的，方法，結果，結論等に関する定性的，定量的な情報を具体的に記述するよう心がける。
- ・英文著者から改行して「Abstract： 」といれ，Abstract を続けて書く。
- ・「Abstract： 」の語句は半角で太字にし，それ以降は太字にしない。
- ・Century，文字サイズ 8.5ポイント。

#### 2.4.4 Key words

- ・1つのKey wordあたりの単語数は，できるだけ少なくする（5単語程度以下）。
- ・Abstractから改行して「Key words： 」といれ，Key words（6語以内）を続けて書く。和文に対応する英文のKey wordsをそれぞれ表記する。

- ・「Key words:」の語句は半角で太字にし、それ以降は太字にしない。
- ・Century, 文字サイズ 8.5ポイント。

## 2.5 本文

[論文・短報・総説] 著者を特定しうる情報(例: 調査地の企業名や大学キャンパス名)のスペースを○(全角記号マル)で置き換えること。また、筆頭著者の出典を本文で明記する場合は、「○○ら(2021)は、」(○○は引用文献の著者名)など校閲者に著者が特定できないように第三者的表現とし、自著、拙著、筆者などの表現を使わないこと。

[技術報告・技術資料] 本文の○での置き換えは不要。

- ・本文は、「1. はじめに(緒言)」、「2. 材料と方法(研究の方法)」、「3. 結果」、「4. 考察」(または、「3. 結果と考察」としてもよい)、「5. 結論(まとめ)」などのように項目をたて、その順序にしたがって記述する。
- ・総説の場合は、「1. はじめに(緒言)」、「5. 結論(まとめ)」以外の項目は著者の判断による。
- ・和文原稿の本文の括弧「」, ( )は、すべて全角を使用すること。ただし、本文中の引用箇所に記載する肩付の文献通し番号「1,3,6)」「1,2-6)」の括弧は、半角の「)」とし、半角のピリオド「,」やハイフン「-」の前後に半角スペースは入れない。

### a. 見出し

- ・本文の見出しは次のとおりとする。

第1順位(章) 1. はじめに, 2. 材料と……, 3. ……

第2順位(節) 1.1, 1.2, 1.3, ……

第3順位(項) 1.1.1, 1.1.2, 1.1.3, ……

第4順位 1) , 2) , 3) , …… (注) Centuryの数字に続く片括弧は全角とする。

- ・見出しの後は改行し、書き出しの文章の行頭は1文字分空ける。また、第1順位の見出しのみMSゴシックとし、次行を1行空けて書き出す。

### b. 用語

- ・和文体は新仮名づかいとし、学術用語以外は常用漢字を用いる。句読点、括弧、文献参照記号等は1文字分とする。必要がある場合に限って、原稿中に英語を用いることがで

きる。

#### c. 生物名，人名，記号など

- ・植物，動物等の生物の和名はカタカナ書きとする。初出箇所には学名を命名者まで必ず記載し，学名はイタリックとする。なお，和名がなく，また学名も不明な場合は，編集委員会に相談すること。
- ・英語の人名の姓は，英文著者名と異なり，2文字目以降を小文字とする。
- ・学名のなかの括弧，引用文献リスト欄，引用箇所の肩付き文献番号の括弧「）」は半角とする。学名のなかの括弧の例：スギ（*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don）(L.f.)の括弧は半角。

#### d. 引用箇所

- ・[論文・短報・総説] 筆頭著者の出典を本文中で明記する場合は，校閲者に著者が特定できないように記載すること。
- ・本文中の引用個所に後述の文献リストに記載した通し番号を用いて，「<sup>1)</sup>」，「<sup>2,3)</sup>」，「<sup>1,4-6)</sup>」のように肩付けで記載する。また，著者名を本文中に表記する場合は，「Bradshaw<sup>1)</sup>は…」などとして，文献リスト番号を付記する。著者が2名の場合は「山中・吉川」とし，3名以上の場合は「Bradshawら」のように筆頭著者名のみ示す。
- ・英文の場合は，引用個所に「(Bradshaw, 1987)」などと文献著者名と発行年を記述する。また，著者名を本文中に表記する場合は，「Bradshaw (1987) …」などとして，発行年を付記する。著者が2名の場合は「Tobias & Yoshikawa」とし，3名以上の場合は「Bradshaw *et al.*」のように筆頭著者名のみ示して他はイタリックの「*et al.*」で省略する。

## 2.6 謝辞

[論文・短報・総説] 謝辞の文章はすべて○（全角記号マル）で置き換えスペースを確保すること。

[技術報告・技術資料] 謝辞の○での置き換えは不要。

## 2.7 引用文献

### a. 掲載の範囲と順序

- ・引用文献のみを，文献著者の姓のアルファベット順に記載してリストを作成する。同一人

名で同一年号の場合は年号の後に発表の早い順からa, b, c, ……の記号をつけて区別する。団体名等は英語表記を基本とし、英語表記が無い場合には、ローマ字表記での並びとする。

- ・注記は本文中に収めることとし、引用の形をとらない。
- ・オンラインの文献を引用する場合は、「著者名，発行年，タイトル，発行元，アドレス（参照：2014年8月8日）.」などとして、数字の前後にスペースを入れずに、必ず参照日を記載する。なお、アドレスの最後にピリオドを付けないこと。
- ・英文原稿の場合も、著者の姓のアルファベット順に記載するが、文献番号は付けない。

## b. 記述方法

- ・雑誌等の場合は、著者名，発行年，論文名，雑誌名，巻・号，ページの順とする。また、単行本の場合は、著者名，発行年，書名，発行所，ページとする。それぞれの項目は和文の場合、全角の「，」で区切り、雑誌の巻（号）とページ数の間は、半角の「：」とし、「：」の後に半角スペースを入れる。発行年は、半角の「（）」でくくり、前後の項目との間に全角や半角の「，」を入れずに半角スペースを入れる。
- ・英文の場合（表記方法が英文と異なる他の欧文等を除く），著者姓名の頭文字，文頭，固有名詞の頭文字を大文字とする以外は小文字とする。英文の場合の「，」「：」「（）」は全て半角とし、学名はイタリックとする。
- ・複数行にわたる場合はインデントして、著者名の1文字目と2行目以降の先頭の文字をできる限り揃える。

記号前後スペースなどの詳細は以下の例示に従うこと。

（例：和文原稿）

### ・単行本・辞典など

- 1) 中西 哲 (1977) 群落の生活型構造, 伊藤秀三編, 群落の組成と構造, 朝倉書店, pp. 193-251. (注) 苗字2文字+名前1文字の場合, 姓名の間に全角スペースを置く, 括弧は半角で, 出版年の年の括弧の前後は半角スペース。
- 2) 日本緑化工学会編 (1990) 緑化技術用語事典, 山海堂, 280 pp. (注) 括弧は半角で, 出版年の年の括弧の前後は半角スペース。

### ・雑誌

- 3) 大手桂二 (1989) 山腹緑化施工地の評価手法に関する研究, 緑化工技術, 14(1): 12-20. (注) 苗字や名前が2文字の場合, 姓名の間に全角スペースを入れない, 発行年の括弧は半角で, 括弧の前後は半角スペース。
- 4) Tobias, D. J., Yoshikawa, K., Ikemoto, A. and Yamaguchi, H. (1994) Seasonal changes of leaf chlorophyll content in the crowns of several broad-leaved tree species. J. Jpn. Soc. Reveget. Tech., 20(1): 21-32. (注) 英文の場合, すべての文字記号は半角で, 発行年括弧の前後や記号の後は半角スペース。
- 5) 森 亘・山中典和・王 林和・吉川 賢・小笠原慎之介・五郎丸歩 (2000) 中国内蒙古毛烏素沙地における臭柏(*Sabina vulgaris* Ant.)更新場所の微環境, 日本緑化工学会誌, 25: 427-430. (注) 和文姓名が2文字や3文字(姓1文字+名1文字, 姓1文字+名2文字, 姓2文字+名1文字)の場合は姓名の間に全角スペースを挿入すること。和文姓名が4文字以上の場合, 全角スペースは入れない。

・ Web サイト, Web ページ

- 6) 環境省.(更新: 2014年8月1日) “特定外来生物等一覧”. 環境省ホームページ.<http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/list/index.html> (参照: 2014年8月8日). (注) 参照日の括弧は半角。括弧の前は半角スペース。更新年月日が不明の場合は括弧ごと省略する。
- 7) 気象庁. “過去の気象データ検索”. 気象庁ホームページ.<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> (参照: 2014年8月8日). (注) 参照日の括弧は半角。括弧の前は半角スペース。

(例: 英文原稿)

・ 単行本・辞典など

- 1) Bradshaw, A. D. (1987) The reclamation of derelict land and the ecology of ecosystem. In: Restoration Ecology (eds. William, R. J., Michael, E. G. and John, D. A.). pp. 53-74, Cambridge University Press, Cambridge. (注) 英文の場合, すべての文字記号は半角で, 出版年括弧の前後や記号の後は半角スペース。
- 2) Levitt, J. (1972) Response of plant to environmental stress. 697 pp. Academic Press, New York and London. (注) 英文の場合, すべての文字記号は半角で, 出版年括弧の前後や記号の後は半角スペース。

・ 雑誌

- 3) Tobias, D. J., Yoshikawa, K., Ikemoto, A. and Yamaguchi, H. (1994) Seasonal changes of leaf chlorophyll content in the crowns of several broad-leaved tree species. *J. Jpn. Soc. Reveget. Tech.*, 20(1): 21-32. (注) 英文の場合、すべての文字記号は半角で、発行年括弧の前後や記号の後は半角スペース。

・ Web サイト, Web ページ

- 4) United States Geological Survey. (Last modified: 29-Jul-2014) “Historical topographic map collection” . The national map. <http://nationalmap.gov/historical/index.html> (Accessed:8-Aug-2014). (注) 英文の場合、すべての文字記号は半角で、発行年括弧の前後や記号の後は半角スペース。

## 2.8 図, 表, 写真

### a. サイズ・色調

- ・ 図表および写真は、原稿テンプレートWordファイルの段組み原稿の天地に添付する。サイズは、2段組原稿の1段もしくは2段のサイズで添付すること。段組みの途中でまたがって貼り付けられた原稿は受け付けない。天地ではなく文中に添付され、内容が不鮮明なサイズの原稿は受け付けない。なお、著者の申し出がない限り、原稿投稿時の色調（投稿原稿がカラーであればカラーで掲載）で掲載される。

### b. 表題

[論文・短報・総説] 表題や注には和文と英文を併記する。

[技術報告・技術資料] 表題や注には和文のみを書く。

### c. 図および写真

- ・ 図や写真は鮮明なものを添付し、図中の文字は見えやすいサイズにする。

### d. 表

- ・ Wordの表作成機能による表もしくは、鮮明な画像を天地寄せで本文に添付する。罫線は可能な限り少なくすること。PDF を含む画像は不可とする。

## 3. 投稿原稿の注意事項

### 3.1 論文・短報・総説・技術報告・技術資料

- ・ 校閲作業効率化のために、審査中の原稿にのみ行番号を入れること（原稿テンプレートWordファイルを参照すること）。

・正原稿提出時に引用文献のあとに1行空けて、編集委員会から通知された原稿受理日を右詰めで書くこと。なお、投稿時には半角括弧のみを右詰めで挿入しておくこと。文字サイズは9ポイント。例：(2022年5月20日受理) (注) 半角括弧も忘れないようにする。

・技術報告・技術資料の英文の表題と著者名は、投稿原稿内での記載は不要だが、J-stageへの公開の際に必要なため、Editorial Managerでの投稿の際に入力すること。

・英文原稿の場合は、上記の和文原稿の執筆要領に準じて作成すること。

### 3.2 緑化植物ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

本文と写真を含め1～2ページとする。本文は、2段組み 1列 27字で1ページ目は 37行以内、2ページ目は47行以内とし、タイトル写真は1ページ目右上に掲載する。1ページ目はタイトル写真以外に1枚程度で地寄とし、2ページ目は引用文献の下に配置する。

### 3.3 新博士紹介

原稿の本文は著者名より下、2段組み1列27字で1ページ目が41行、2ページ目が50行とする。図表や写真の添付は天地寄せとする。原則的に謝辞の記載は認めない。

### 3.4 文献紹介

文献紹介は、著者名、発行年、表題、掲載誌名、巻、号、ページ、発行所等を必ず記載する。なお、外国文献の場合には、原書表記に加え、できるだけ和訳文を付記する。

### 3.5 その他

・その他の原稿の作成は、技術報告・技術資料の執筆要領に準じるが、摘要とキーワードは不要とする。

### 3.6 投稿原稿の行間設定

論文・総説・短報・技術報告・技術資料を投稿する際に、フォントやフォントサイズは上記で指示した。ここでは、原稿作成で見落としやすい行間設定をまとめた。原稿テンプレートWordファイルの書式に従う(Word の行間設定)。この行間設定を無視した投稿原稿は、受け付けないので投稿前に必ず以下の詳細を確認すること。

[論文・短報・総説]

- ・「原稿種別」～「表題」下の空行までの行間：18 ポイント固定値
- ・「著者名」～「著者所属」までの行間：14 ポイント固定値

- ・「著者所属」下の空行の行間：14 ポイント固定値
- ・「摘要」「キーワード」の行間：12 ポイント固定値
- ・「キーワード」下の空行の行間：12 ポイント固定値
- ・「Abstract」の行間：12 ポイント固定値
- ・「Key words」の行間：12 ポイント固定値
- ・「Key words」下の行間：14 ポイント固定値
- ・「本文」の行間：1 行
- ・「大見出し」の行間：2 行
- ・「引用文献」というタイトルの行間：2 行
- ・引用文献リストの行間：12 ポイント固定値

[技術報告・技術資料]

- ・「原稿種別」～「表題」下の空行までの行間：18 ポイント固定値
- ・「著者名」～「著者所属」までの行間：14 ポイント固定値
- ・「著者所属」下の 2 行空行の行間：14 ポイント固定値
- ・「摘要」「キーワード」の行間：12 ポイント固定値
- ・「キーワード」下の 2 行空行の行間：12 ポイント固定値
- ・「本文」の行間：1 行
- ・「大見出し」の行間：2 行
- ・「引用文献」というタイトルの行間：2 行
- ・引用文献リストの行間：12 ポイント固定値

[緑化植物ど・こ・ま・で・き・わ・め・る・新博士紹介・文献紹介・コラム・その他]

- ・編集委員会や学会HP等で提供する原稿テンプレートWordファイルの行間設定を元に作成する。